

## 株式会社 Alpha の株式の取得（完全子会社化） に関する補足資料

---

2021年7月14日

株式会社 Macbee Planet  
(証券コード：7095)

# 本件株式取得のサマリ

- 株式会社 A l p h a の発行済み株式のすべてを取得し、完全子会社化。
- AIアルゴリズムと3D技術を活用し、LTVマーケティングの進化（深化）によるシナジー創出見込み。
- 2022年4月期連結業績への影響は売上高**約6億円増加**、営業利益**0.6億円増加**（のれん償却加味）見込み。

## 概要

契約締結日	2021年7月14日
株式譲渡期日	2021年8月2日（予定）
株式取得価額	1,200百万円
取得持分	100%
取得資金の調達方法	金融機関からの 借入金を充当予定



**3D AD**  
Interactive 3D Advertising

**広告の可能性を、拡張する**

「3D AD」は、デジタル広告を次の次元へと導きます。  
3Dグラフィクスが作り出す、忠実に再現された世界観。ユーザーの動きに呼応する、インタラクティブな挙動。  
最新テクノロジーを駆使した豊かな表現で、ユーザーの目を奪い、心を動かし、指を止めます。

さらに、機械学習をベースにした配信アルゴリズムが、楽しんでもらえる人へ、この表現を届けます。

広告がコンテンツとして愛されるために。  
私たちはこのプラットフォームを広め、テクノロジーを武器に、広告の可能性を拡張し続けます。

# 株式会社 Alpha の会社概要

- AIを用いた独自の配信アルゴリズムと3Dクリエイティブ技術が強みのマーケティングテクノロジーカンパニー。
- 低いCPI<sup>※</sup>と高いROAS<sup>※</sup>を実現し、App Store、Google Play売上ランキング上位約30%のアプリで導入実績。
- 売上高は対前年比約7倍と急成長。

*alpha, inc*

## 会社概要

名称	株式会社 Alpha
ビジョン	広告の可能性を、拡張する
所在地	東京都渋谷区桜丘町31-14
代表者	正田 英之
事業内容	AIマーケティングプラットフォーム「3D AD」の運営
設立年月日	2016年2月29日



代表取締役兼CEO 正田英之(しょうだひでゆき)

1986年生まれ。慶應義塾大学卒業。  
2010年にWebマーケティング支援とWebシステム受託開発のグローバルランス社、2013年7月にInstagramコマースを手掛ける米国10sec社を創業したシリアルアントレプレナー。2016年2月にVRize<sup>※</sup>創業。CEOとしてVRize Video、3D ADのプロダクトを開発。Incubate Camp5th入賞、サイバーエージェント主催スタートアップ版あした会議優勝、KDDI∞ラボ11期参画など



取締役CTO 露木雅(つゆきひとし)

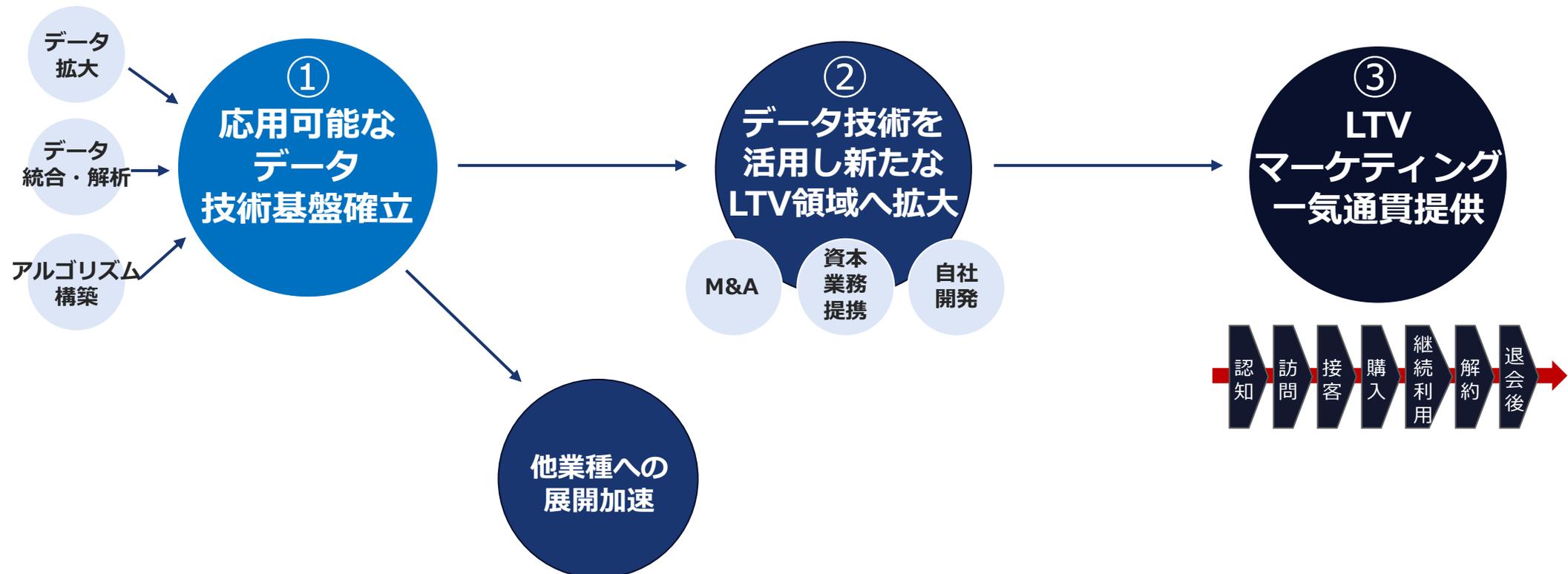
1987年生まれ。慶應義塾大学卒業。  
2012年より、グリーにて大規模インフラの構築・運用、開発基盤・仮想化システム開発等に従事した後、米国10secのサービス開発に従事。ヘルスケア事業会社のCTOを経て、VRize<sup>※</sup>を共同創業。CTOとして開発全般・組織作りをリード。サーバーサイド・フロントエンド・インフラ・iOS・Android・Unityとあらゆる開発を高いレベルでこなす。アーキテクチャ設計とキャッチアップ能力の高さが強み。

※CPI : Cost Per Install アプリのインストールにかかる1件あたりのコスト 当社グループでいう成果報酬単価 (CPA)  
※ROAS : Return On Advertising Spend 広告コストに対して発生した売上の割合 当社グループでいうROIに近い概念

※VRize : 2020年にAlphaへ社名変更

# 当社グループの成長戦略基本方針

- データ拡大や技術基盤の確立により、LTVマーケティングを進化させることで事業成長。
  - 1、他業種への展開（新規クライアントの獲得、売上高の向上）
  - 2、新たなLTV領域への拡大（顧客単価向上）
  - 3、LTVマーケティングの一気通貫（顧客単価・収益性向上、リテンション強化）



# 本件株式取得によるシナジー

■両社の強みを活かし、成長スピードを加速するだけでなく、より大きな市場に進出。

		目的	具体的な取り組み	当社グループへの業績影響
1	短期	既存業界の深堀	・当社グループの既存業界（美容・金融等）への「3D AD」の提供	・既存顧客の成果向上 ・顧客単価の向上
		他業種への展開	・ゲーム・エンターテインメント業界への展開 ・アプリマーケティングへの展開	・新規クライアントの獲得 ・売上高のさらなる伸長
2		データ解析や配信技術のA I化	・AI配信アルゴリズムとハニカムとの連携による広告配信の精度向上と効率化/省人化を図る	・成果発生数の向上 ・収益率、労働生産性の向上
3	中期	L T V向上力の底上げ	・3D技術を活用し、インタラクティブなユーザー体験の提供	・顧客転換率の向上による成果発生数の増加 ・売上高の向上
4		L T Vマーケティング領域の拡張	・LTVが高いユーザーに対し認知拡大を目的とした広告配信の提供	・顧客単価向上による収益率向上
5	長期	新たな広告領域への展開	・3D技術によるVR,ARにおける新たな広告マーケットの創出	・業界全体の成長機会の創出

# 2022年4月期業績に与える影響

■現在精査中。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	営業利益率
当社グループ	12,000	1,000	8.3%
株式会社A l p h a	<b>600</b>	<b>60</b>	<b>10.0%</b>

※ A l p h a の業績については、みなし取得日2021年8月から2022年4月までの**9か月間**

※ A l p h a の営業利益については**のれん償却費を加味した額**

# 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する内容が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性等を含むため、将来の経営成績等の結果を保証するものではありません。

したがって、実際の結果は、環境の変化などにより、本資料に記載された将来の見通しと大きく異なる可能性があります。

上記のリスクや不確実性には、国内外の経済状況や当社の関連する業界動向等の要因が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・事象の発生等があった場合においても、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改訂等を行う義務を負うものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は当該情報の正確性、適切性等を保証するものではありません。